

「生駒の聖天さん」と呼ばれて親しまれている宝山寺。商売繁盛の神様として全国的な信仰をあつめている当山の歓喜天尊は約300年前に中興の祖・湛海律師によって勧請された靈天である。本尊は不動明王で厄除け・病氣平癒・家内安全・商売繁盛などさまざまな現世利益があるとされる。

湛海律師は延宝六年(1678 江戸時代)、50歳の時に入山し、すでに荒廃していた寺を再興し、正徳六年(1716)に88歳で遷化されるまで、多くの堂宇を建立するとともに仏像彫刻や絵画制作などの作品を手がけ、今に伝えている。獅子閣とともに寺宝には多くの重要文化財がある。

### 洋風客殿・獅子閣

明治初期、第14世・乗空和尚の発願より宝山寺の迎賓館として明治15年棟上、同17年に落慶した。設計を担当した越後出身の宮大工・吉村松太郎は、横浜で西洋建築を学んだ後、棟梁としてその建築にあたった。維新の風の中、乗空和尚が進取の精神で寺にもたらした文明開化ともいわれている。

この「獅子閣」は明治の初期に多く建てられた「いわゆる擬洋風建築」の代表例として、昭和36年、国の重要文化財に指定された貴重な建造物である。

概要:総2階建 屋根は主屋が寄棟造、玄関・車寄は切妻造の棧瓦葺き

和の伝統的な木造技法をベースに、西欧の石造・古典主義(ルネサンス)に由来するデザインを消化吸収した独自の造形である。

その見どころの一部を紙面でご案内。:

\* 玄関にベランダと車寄せを配したコロニアルスタイル オーダー(柱の様式)はコリント式で、フルーティン(柱の縦の溝彫り)を施し、柱頭はキャピタル(柱頭飾り)が付き脚部も精緻な彫刻で飾っている。



正面(玄関)



コリント式オーダー



1階ベランダ下の懸崖造

\* 1階は洋室と和室からなり、洋室ではひととき目を引く大胆な構造のらせん階段、出入口扉の色ガラス、光沢仕上げの漆喰壁がある。

らせん階段 2階に上るらせん階段は、1本の柱に各段の踏板・蹴込み板が組み込まれ、階段が宙に浮いたような造りになっている。

色ガラス 当時、ガラスは新しい建築文明の象徴であった。4色の色ガラスを通して外を眺めると、それぞれに四季の景色が楽しめる。

漆喰壁 ええ!これが漆喰壁と驚くほどの光沢仕上げ。その秘密は何層にもきめ細かい土を重ね、上塗りの漆喰は、わずか2mmほどの厚みの中に2~3行程以上ある丁寧な仕事にある。

\*2階は10畳2室を並べ、上の間の床の間は黒檀・紫檀・檜一枚板など贅沢な造りで、天井は格天井に納める等、もてなしの空間には寺院らしい重厚な趣の和室となっている。



1階 洋室



2階 和室

\*2階ベランダ(南)からは、奈良盆地の大パノラマが広がり、晴れた日には東大寺大仏殿(屋根)や興福寺五重塔まで遠望でき、安らぎを感じます。

(参考: 寶山寺 HP 他関係資料)

注釈:

擬洋風建築とは、

明治初期に日本の棟梁が伝統的な技法をベースに、西欧に由来するデザインを消化吸収し建てたもの。その多くは学校、役場・警察署などの庁舎である。

擬洋風建築の代表例

旧開智学校: 明治9年に建てられた。各窓にギヤマンを取り付けた擬洋風建築の代表例 (長野県)

旧鶴岡警察署庁舎 : 獅子閣と同じ明治17年に建てられたもの。(山形県)



旧開智学校



旧鶴岡警察署庁舎

(写真は松本市 HP, 山形県 HP から転載)